



日本共産党・前県会議員

2022年8月15日号

加藤なを子活動レポート

県政へのかけ橋



発行：日本共産党・加藤なを子事務所

＜連絡先＞藤沢市藤沢2-3-2

TEL0466-25-4776 fax 25-4761

県政を変えよう

必要な支援策を最優先に

共産党県議団は、知事宛の予算要望書作成の準備をすすめています。7月25日は午前中から夕方にかけて、県庁でさまざまな県内の団体の皆さんから福祉・保育・平和・障がい者・子どもたち・女性に関する課題などの内容について懇談しました。直接、各分野の皆さんとの意見交換や、要望をお聞きすることで私たちの認識も深まり要望書作成に大変参考になります。毎回、新たな気づきを感じる懇談です。



(県内のいろいろな団体のみなさんと懇談)

高齢者・障がい者福祉に関わる団体の皆さんからも、切実な現場の様子や困難が語られました。

コロナ対策、物価高騰、人材確保、経営難、支援の脆弱さ。困っているその声に寄り添う県政に大幅な転換が必要です。

県民に必要な予算や支援策を、優先して行なう県政に変えるためにも、共産党県議団は予算要望書に皆さんの願いを盛り込んで作成します。県政への要望やご意見を是非お寄せください。



なを子の花だより さるすべり(百日紅)

100日間ピンクの花を咲かせるが名前の由来だそうです。実際は、咲き続けるのではなく一度咲いた枝先から再度芽が出てきて花をつけるため、咲き続けているように見えるのだとか。

もうひとつの由来は皆さんもご存じのとおり、木の幹がスベスベで、猿も登れないので猿すべりとも。

花の色は、薄いピンク色や白、薄紫もあります。藤沢では、街路樹として使われ、石川の地域が見事です。夏の強い陽ざしの中で花のボリュームたっぷり元気な咲いています。





ブルーベリー どっさり

日本共産党・藤が岡後援会は、7月30日に30度を超える暑さの中、相模原市の菊地原ブルーベリー園(無農薬栽培)にブルーベリー狩りに行きました。私も参加しました。

以下は、後援会の中河原さんのお話です。

「子ども(小学生)3名の18名が参加しました。

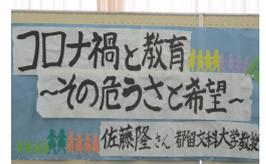
土屋俊則市議も参加しました。昨年が不作だっただけに、今年には期待していました。そしてそれは見事に達成されました。酷暑の中、約2時間、みんな頑張って大粒のブルーベリーを次々と収穫しました。事務所に帰って計量したら、約80kgの大収穫でした。(去年は35kg)。」



加藤なを子とラインでつながって下さい。

<http://kato.jcpweb.jp/> 加藤なを子のブログです。広めて下さい。

学校は企業の 市場開拓の場に!?



夏の講演会「コロナ禍と教育～その危うさと希

望」佐藤隆さん(都留文科大学教授)に参加しました。(7月23日みんなの教育・ふじさわネット主催)

GIGAスクール構想の「ひとり一台の端末」のねらいが、経産省の教育情報産業と深く結びつき、学校が企業の市場開拓にされる危うさがあること、「世界で活躍する革新的なグローバル人材の育成促進」(教育再生会議)であることが示されました。佐藤先生は 学習履歴、ドリル、テストの回答傾向をAIで解析、評価、管理し、「身の丈にあった」学習課題への取り組みがすすめられようとしていること、学習履歴の管理統制がすすめられていくことを、指摘されました。 **個人情報、学習履歴が一生ついてまわることになるかもしれない?**

私は国政の予算要望の場で、学校での一人一台端末について経産省の担当者と懇談したことがあります。その方は「今の学校や教員には子どもたちの教育は任せられない。GIGAスクール構想でこそ最適な学びになり、先生たちもこれで助かる。」という説明をしていました。

子どもたちが分析され、データ化され、レッテルを貼られ、ロボットになる!?

実際に見たり、体験したり、子どもたちが一緒に学びあうこと。それぞれの個性が尊重される学びこそ必要です、と佐藤先生はおっしゃっていました。いつか学校はICT中心になり、

企業や国家によって学習履歴や操作履歴が蓄積され、企業の市場開拓の場になるかもしれない?!

マイナンバーカードもそのひとつではないかと怖くなります。

「学ぶという行為は他者との対話が有機的な関連をもちながら発想する。」(ガート・ピースタ)

「子どもが学習の主体となるためには、興味をその軸に捉えなければならない。」(ジョン・デューイ)。私たちは何をすべきかが問われる学習会でした。